

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月22日

協議会名:直方市公共交通協議会

評価対象事業名:R6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
MGタクシー株式会社	コミュニティバス上頓野線の運行 (直方駅～会下団地～竜王峡)	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知を行った。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 年間利用者数 目標 5,794名以上 実績 6,679名(115%)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。
筑豊タクシー株式会社	コミュニティバス鴨生田団地線の運行 (直方駅～鴨生田団地～サンリブのおがた店)	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知を行った。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 年間利用者数 目標 9,378名以上 実績 9,223名(98%) 赤地新入線と重複するバス停が多いことから、同一バス停利用者が赤地新入線と併用している可能性があり利用者が減ったと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。
MGタクシー株式会社	コミュニティバス武谷線の運行 (直方駅～ハローデイ前～ゴルフ場)	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知を行った。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 年間利用者数 目標 9,241名以上 実績 10,055名(109%)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。

直方タクシー有限会社	コミュニティバス植木線の運行 (直方駅～下新入～下町公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知を行った。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	年間利用者数 目標 6,355名以上 実績 6,449名(101%)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。
MGタクシー株式会社	コミュニティバス感田線の運行 (直方駅～東和苑北～行常集会所)	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年10月より需要の高いクリニックに停留所を新規設置することで利用者増を図った。 ・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知を行った。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	年間利用者数 目標 5,900名以上 実績 6,745名(114%)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。
直方タクシー有限会社	コミュニティバス赤地新入線の運行 (緑光苑～直方駅～サンリブのおがた店)	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知を行った。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	年間利用者数 目標 6,608名以上 実績 7,396名(112%)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月22日

協議会名:	直方市公共交通協議会
評価対象事業名:	R6年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>直方市内の公共交通は、市の中心部にあるJR直方駅が交通の拠点となっている。南北にはJR筑豊本線が通り、北東方面へは筑豊電気鉄道が、南東方面へは平成筑豊鉄道が走っているほか、JR直方駅前を発着する民間路線バスが各方面へと運行しており、市中心部から放射状に公共交通網が形成されている。</p> <p>高齢化の進展などにより、買物や通院などの移動手段である公共交通機関の重要性が認識されているところであるが、民間路線バスなどの廃線や減便などが相次ぐ中、現状の交通サービスを維持・確保していくことは容易ではなく、自治体の限られた財政負担の中で、そのようなサービスを確保していくために、効率的な運行ルートや運行形態を形成するとともに、地域公共交通確保維持事業を活用して、安定的な運営を行っていく必要がある。</p> <p>直方市は令和6年3月に都市・地域総合交通戦略及び地域公共交通計画を策定し、都市将来像の実現を交通面で支えていくために交通将来像(基本方針)を設定した。この交通将来像を実現するために戦略目標を設定し推進するため、行政機関、交通事業者、市民・企業等がそれぞれ主体性を持ち、役割を意識するとともに、相互に連携・協働しながら取り組んでいく。</p>